

劇
35ミリ
白黒／60分
日・英語版

- 企画
全国地域婦人団体連絡協議会
- 協賛
中外製薬株式会社

スタッフ

- 製作
村山英治
- 原作
筒井敬介
- 脚色
片岡 薫
- 監督
青山通春
- 撮影
木塚誠一
- 音楽
芥川也寸志
草川 啓
- 美術
山崎正夫
- 照明
若月茂夫
- 録音
大塚忠男

出演

タッチャン：
船津たかひで
お兄ちゃん：
田中よしのり
お姉さん：
伊吹友木子
おばあさん：
浦辺条子
リンゴ売りの小父さん：
トニー・谷
トキ子ちゃんのお母さん：
忍 節子
他

文部省選定
東京都教育委員会選定
1957年ベネチア国際映画祭児童映画展グランプリ
フランス・サンドリヨン賞
イタリア文化賞
国際インストンド会議製作者賞および監督賞 他
松竹系配給
ドイツ、オーストリア、スイス、ベルギーTV放送
1957年キネマ旬報短篇映画ベスト・テン第5位

『お姉さんといっしょ』は、NHKラジオの連続放送劇で全国津々浦々の家庭で親しまれた人気番組を原作とする児童劇映画である。かつて黒澤明監督の『羅生門』がベネチア映画祭の劇映画部門でグランプリを受賞し、日本の劇映画が世界的水準にあることが認められたが、児童劇映画のグランプリは『お姉さんといっしょ』が初めてであった。



どこの家庭でも兄弟というものは、けんかばかりしていますが、でも不思議なことに、悪いことをする時は仲良しです。お兄ちゃんはタッチャンにミシンの椅子を持ってこさせて、時計の針を「えいッ」とおやつの3時にしてしまいました。帰ってきたお姉さんはあわてておやつを出します。

しかし翌朝、あわてん坊のお兄ちゃんは、「おくれたッ」と思って学校へ機関車のように駆けていくと、まだ誰も来ていなかったのです。

さて、信州のおばあちゃんが田舎のおみやげをいっぱい持ってきてくれました。タッチャンもお兄ちゃんも、何から何までおばあちゃんにやらせてしまいます。お姉さんはせっかくの躰がもとへもどってしまったとブンブンです。

おばあちゃんが信州へ帰る日に、タッチャンはお父さんの名刺の空き箱にしまっておいた大事なヒミツをあげました。おばあちゃんが電車の中でこっそり開けてみると、ドングリや化粧タイルのかけらやミシンのボビンが宝物のように入っていました。

おばあちゃんが帰ってしまっ、つまらなくなったある日、タッチャンは、表の通りで信州からオート三輪に乗ってきて“信州リンゴはいかがです”と歌っていたおもしろいリンゴ売りの小父さんに会ったのです。タッチャンは夢中であとをおいかけてました。小父さんについていけば、お母さんやおばあちゃんもいる信州へいけそうでした。そのうち暗くなってタッチャンは帰り道に迷子になってしまいます。知らない町の夜道はお化けにでも会いそうで、こわい思いをし、やっと家にたどりつきました。

毎日けんかばかりしていますが、お姉さんとお兄ちゃんとタッチャンは、やっぱり仲良しです。3人で買い物の時、お兄ちゃんがずるをしてタッチャンの三輪車に乗ってしまったので、タッチャンは1人で重い買い物籠を引きずるように提げて帰ってきました。そしてこっそり風呂場にかくれていると、帰ってきたお姉さんやお兄ちゃんは心配して大騒ぎになりました。とうとうお兄ちゃんはわんわん泣きだし、タッチャンも風呂場でえんえん泣いてしまいました。そこへ、おばあちゃんからリンゴが届き、お父さんからも手紙がきました。お父さんが長かった出張から帰ってくるのです。その手紙によると、実家に帰って静養しているお母さんの病気も良くなってきたそうです。

